

◎ 聴解問題スクリプト

Track 4

練習 女子学生と男子学生が、山田さんとの待ち合わせについて話しています。この二人はこれからどうしますか。

女子学生：山田さんに電話した？

男子学生：うん。

女子学生：何だって？

男子学生：急用ができたから、ちょっと遅れるって。待ってるって言ったんだけど、先に行ってくれって。

女子学生：じゃ、そうする？ でも、山田さん、研究会の場所、知ってるのかな？

男子学生：どうだろう？

女子学生：また、電話してみたら？

男子学生：いや、大丈夫だよ。先にどうぞって言ったんだから。

女子学生：そう言ったのなら、大丈夫ね。

この二人はこれからどうしますか。

1. 山田さんを待ってから行く。
2. 山田さんに先に行ってもらおう。
3. 山田さんに電話をする。
4. 山田さんより先に行く。

Track 6

1番 新入生のオリエンテーションで、大学職員が、履修に関する新しい制度について説明しています。大学がこの制度を導入した理由は何ですか。

本学では今年度から新しい制度を導入しました。一年間に履修できる単位数に制限をもうけたのです。以前ですと、1・2年生の間に単位を多めに取って、3・4年生の授業を少なくする、ということもできました。しかし、大学で単位を取るということは、学んだ内容をきちんと理解している、ということです。それには、講義だけではなく、自宅での予習・復習が欠かせません。自宅で学習する時間を十分に確保しようとするれば、一年間に取得可能な単位数はおのずと限られてきます。そこで、この制度を導入することにしたわけです。

大学がこの制度を導入した理由は何ですか。

1. 学生が各科目の内容を十分に学ぶ時間をとるため
2. 講義に出席することをより重視したため
3. 1・2年生の段階で単位を取りやすくするため
4. 学生の学習上の負担を減らすため

Track 7

2番 テレビで司会者が文章の書き方について作家にインタビューしています。

この作家は、趣味で文章を書く人が、文章を上達させるためにはどうすればよいと言っていますか。

司会者：文章を書くことが仕事ではなく、趣味である人も多いと思います。このような人たちが文章の上達を目指すには、どのようにすればよいでしょうか。

作家：そうですね、趣味で書くということには、締め切りがないし、長さも自由ですよ。それでは、上手になりにくいでしょうね。

司会者：自由であることが、かえって良くないんですか。

作家：ええ。文章を書く上で一番大切なことは、話のポイントを絞り、その他のことは捨てて、内容を洗練させることです。そこで例えば、一時間で原稿用紙2枚の作文を書く、というように課題を課しましょう。そうすることで、自分の体験や調べたことなど、多くの情報の中から最も大切なことだけを選び取る訓練ができるでしょう。

この作家は、趣味で文章を書く人が、文章を上達させるためにはどうすればよいと言っていますか。

1. 誰かに見てもらって内容を洗練させること
2. 書く分量や書くことにあてる時間に制限を設けること
3. 自分の調べたことを全部書くこと
4. 書きたいことについての情報をよく調べること

Track 8

3番 女子学生と男子留学生が、話をしています。この男子留学生は新しい引っ越し先のどんな点がよいと言っていますか。

女子学生：来月で大学の寮を出るんだって？ 引っ越し先、見つかった？

男子留学生：ああ。ある会社の社員寮に決まったんだ。

女子学生：会社の社員寮？ 留学生にも貸してくれるの。

男子留学生：うん。

女子学生：へえ。でも、まわりはみんなその会社の人でしょう。寂しくない？

男子留学生：別に。友だちとは大学で会えるからね。それより、僕には、日本人は朝早くから夜遅くまで働いているっていうイメージがあるんだけど、実際はどうか近くで見られるだろうと思って、楽しみなんだ。

女子学生：確かに、そういう機会ってあまりないよね。それに、学生じゃない人とも知り合えて、いいかもしれないね。

この男子留学生は新しい引っ越し先のどんな点がいいと言っていますか。

1. 大学とは違った友人ができる点
2. そこで働きながら安く住める点
3. 働いている日本人の生活を知ることができる点
4. 日本語で交流するチャンスが増える点

Track 9

4番 男子学生と女子学生が電話で話しています。この女子学生が男子学生に頼まれたことは何ですか。

男子学生：あ、もしもし、山本さん？

女子学生：あ、太田くん、おはよう。どうしたの、こんなに朝早く。

男子学生：実は、昨日から熱が出ちゃって……。今日はゼミの発表だったんだけど、それも行けそうにないんだ。

女子学生：え、大丈夫？ じゃあ、ゼミの先生には私が話しておくから。

男子学生：あ、いや、それはさっき先生に電話しておいたから。発表は来週にまわしてくれるって。

女子学生：そう。

男子学生：それで、今日の経済学の授業なんだけど。

女子学生：3限の？ あ、もしかして、プリントのこと？

男子学生：うん。あの授業はいつもプリントが配られるから、僕の分もとっといてくれる？

女子学生：わかった。授業の内容も、あとで教えてあげる。

この女子学生が男子学生に頼まれたことは何ですか。

1. 病気のことをゼミの先生に伝えること

2. ゼミの発表を代わりにすること
3. 授業のプリントをとっておくこと
4. 授業の内容をあとで教えること

Track 10

5番 先生が、読書について話しています。この先生は、読書をするときはどんなふう
に読むことが大事だと言っていますか。

読書をするときには、先入観を捨てて本と向き合みましょう。例えば、本に自分がよく知っていることが書かれていると、その本は自分の考えと同じ意見で書かれていると思っ
てしまいがちです。このような思い込みがあると、筆者がどのような考えを持っているの
かを理解しようとしなくなってしまったり、自分の考えにひきつけて人の考えを曲げてし
まったり、ということが起こるのです。そして、筆者の主張がわからなくなってしまいま
す。

この先生は、読書をするときはどんなふう
に読むことが大事だと言っていますか。

1. 自分の知識や経験を生かして読むこと
2. 先入観や思い込みを捨てて読むこと
3. 筆者の考えに同意しながら読むこと
4. 筆者の意見を自分なりに解釈して読むこと

Track 11

6番 日本語のスピーチ大会で留学生がスピーチをしています。この留学生の言いたい
ことは何ですか。

よく何事も経験が必要だと言われますが、経験するだけでいいのでしょうか。

視野を広げるのが目的で海外に行き、ほんの少し嫌な目にあうとその国のことが嫌いにな
ったり、自分の国が一番いいと思ったりする人がいるようです。これはせっかくの経験
が生かされず、とても残念なことです。そうなってしまうのは、その国のことをよく知ら
ないからです。もしその国について少しでも勉強していれば、自分の国とは違うことが起
きたとき「そうそう、この国ではこうする」と、違いを楽しむ余裕が出ます。ですから、
何も知らずに経験するのではなく、知識の確認をしながらの経験こそが人間を大きくする
のだと思います。

この留学生の言いたいことは何ですか。

1. どんなことでも経験することが重要だ。
2. 海外旅行をすると視野を広げることができる。
3. 海外に行って嫌な経験をすることも大切だ。
4. 経験する前に勉強しておくことが必要だ。

Track 12

7番 研究者が新しく改良されたプラスチックについて話しています。新しいプラスチックが従来のプラスチックよりも優れている点は何だと言っていますか。

石油からつくられるプラスチックは、軽くて丈夫。おまけに透明の具合や柔らかさをいろいろ変えることができますので、ビニール袋など、多くのものに利用されています。しかし、木や紙とは違い、土のなかで分解されずにいつまでも残ってしまうという難点があります。そこで近年、この点を改良した、新しいプラスチックが作られています。新しいプラスチックは、トウモロコシや植物のでんぷんなどを原料としていて、土の中に埋めておくと微生物によって分解されるという特徴をもっています。ただし、従来のプラスチックに比べると、一般に耐久性の点で劣ります。ですから、耐久性を増すためには、何らかの技術的な工夫が必要とされます。

新しいプラスチックが従来のプラスチックよりも優れている点は何だと言っていますか。

1. 軽い点
2. 微生物によって分解される点
3. 用途が多様である点
4. 耐久性が高い点

Track 13

8番 男子学生と女子学生がコミュニケーション能力について議論しています。男子学生は、さらに何が必要だと言っていますか。

男子学生：最近、学校教育で、コミュニケーション能力が注目されてるよね。

女子学生：今まで知識を覚えさせることばかりやっていた反動じゃないかな。

男子学生：新聞に、これからは学校で、スピーチの技術を高めることにも力を入れるって書いてあったよ。なんかおかしくない？

女子学生：そう？ 必要なんじゃないの？ 自分の考えていることを相手にわかってもらうっていうのは。

男子学生：でもスピーチってのは、一方通行のものでしょ。意見交換みたいに、双方のやりとりを伴うものも必要だよ。なのに、一方的に自分の意見を主張する技術ばかり注目されてる。

女子学生：そうか、スピーチだけじゃ足りないのね。

男子学生は、さらに何が必要だと言っていますか。

1. 知識を覚えること
2. スピーチの技術のみがくこと
3. 一方的に自分の意見を主張すること
4. お互いに話のやりとりをすること

Track 14

9番 中古自動車を輸出する会社の経営者が、講演会で話しています。この人は、会社を成功させるためにどんなことをしましたか。

前の仕事をしていたとき、まだまだ使えそうな車が廃棄のために業者に引き取られていくのを見て、どこかに販売できないかと考えました。私が今の会社を起こした当時は、中古車を扱う大手の輸出業者がいなかったのです。新しい会社でも成功するチャンスがあると思ったんです。しかしそのためには、従来のやり方と同じことをやっていたはだめでしょう。そこで、客に実際に中古車を見せて品定めをしてもらうというスタイルを止めました。車の在庫を持たず、情報だけを提供することにしました。この方法だと、実物を仕入れに行ったり、客に海外からわざわざ車を見に来てもらったりしなくてもすむので、大量に販売することができるのではないかと考えたからです。

この人は、会社を成功させるためにどんなことをしましたか。

1. 中古車の販売方法を変えた。
2. 中古車の新しい需要をさがしだした。
3. 客のニーズを細かく調査した。
4. 客に実物を見てもらうようにした。

Track 15

10番 先生が体内時計について話しています。この先生は、体内時計と実際の時間のズレを直すにはどうすることが最も重要だと言っていますか。

人間の体内にあって、生活のリズムを刻む時計を体内時計といいます。この時計はなぜ

か25時間周期で、実際の1日、24時間より1時間長いんです。これで困るのは体内時計と実際の時間のズレが蓄積すると、実際の生活時間のリズムが狂ってしまうことです。ですから、毎日時間のズレを直して、体を実際の時間に合わせなければなりません。それには、朝食を食べたり、軽く体を動かしたりするのもいいんですが、しっかり朝日を浴びることほど効果的なことはありません。その後に簡単な運動をすとか、シャワーを浴びたりすると、気持ちよく目覚めることができます。

この先生は、体内時計と実際の時間のズレを直すにはどうすることが最も重要だと言っていますか。

1. ご飯を食べる。
2. 体を動かす。
3. 日光を浴びる。
4. シャワーを浴びる。

Track 16

11番 料理の専門家が、テレビで、子供の食生活について話しています。

この専門家は、子供たちの食生活を改善するために、どんなことをしていますか。

現在の日本では、成長期の子どもが、好きな物ばかり食べ続け、栄養が偏ってしまうということが起こっています。このような子どもたちの食生活を改善することが重要ですが、「栄養を考えて食べなさい」と口で言うだけでは、子供たちにはあまりピンとこないようです。

そこで私は、子どもたち向けの料理教室を開くことにしました。どんな食品を組み合わせれば栄養のバランスを取ることができるのかといったことを、料理をすることや実際の食事を通して、子どもたち自身が学んでいく必要があると考えています。

この専門家は、子供たちの食生活を改善するために、どんなことをしていますか。

1. 加工した食品を食べさせないようにしている。
2. 不足している栄養を補う食品を食べさせている。
3. 栄養のバランスをとるように言い聞かせている。
4. 栄養の取り方を体験から学ばせている。

12番 女子学生が、講義で困っていることについて先輩の男子学生に相談しています。

この男子学生が言いたいことは何ですか。

女子学生：先輩、今、講義で困ってることがあるんです。

男子学生：どうしたの？

女子学生：専門用語の定義は教科書に書いてあるんですけど、先生はどうやら教科書に書いてあるのとは違う意味で用語を使ってらっしゃるみたいなんです。

男子学生：ああ、そういうことってあるよね。

女子学生：私がよく理解できてないのか、先生が間違ってるのか、よくわからなくて……。

男子学生：同じ用語が、研究者によって違う意味で使われるっていうのはよくあることだよ。だから、先生が間違ってるっていうことではないと思うよ。まずは先生にその用語をどういう定義で使っているのか確認してみたらどうかな。

この男子学生が言いたいことは何ですか。

1. 先生の定義に従うべきだ。
2. 教科書の定義に従うべきだ。
3. 用語の定義は一つとは限らない。
4. 一見異なる定義も実は同じだ。

13番 女性と男性が、道路のアスファルトについて話しています。

この道路の温度が高くなるらないのは、なぜですか。

女性：見て、この表示。道路を涼しいアスファルトに変えました、だって。

男性：ああ、それは新しいタイプのアスファルトのことだよ。水分を吸収して長い間保てる素材が混ぜてあるんだ。

女性：それが、どうして、涼しいアスファルトになるの。

男性：例えば、雨が降るとするね。すると、その素材が水分を吸収する。そして、その水分が蒸発する時にアスファルトの熱を奪う。それで、道路の表面温度を下げられるってわけさ。

女性：じゃあ、土と同じようなものね。長い間って、どのくらい？

男性：一週間たっても6度から8度くらいは温度を下げた状態にしておけるらしいよ。

女性：へえー、すごいねえ。

この道路の温度が高くないのは、なぜですか。

1. アスファルトが水で直接冷やされるから
2. アスファルトに特別な水が混せてあるから
3. アスファルトの中で水が循環しているから
4. アスファルトに水分を吸収する素材が入れてあるから

Track 19

14番 女子学生が、ボランティアをした体験についてスピーチをしています。

この女子学生は、病院のボランティアをしてどんなことに気づいたと言っていますか。

私はこの夏休みに、病院でボランティアをしました。担当したのは、ワゴンに本を積んで、病院内を回って本を貸し出す仕事でした。実際にやってみると、入院患者さんたちだけでなく、その家族の方々にもけっこう利用されていることがわかりました。ある方は病人にずっと付き添っていて本を買いに行く時間がなかったので、こうして借りられるのが嬉しい、とおっしゃっていました。それから、病院のスタッフからは、私たちのようなボランティアが加わったことで、良い意味での緊張感が生まれ、活気が出てよかった、と言われました。ボランティアをやる前は、入院患者の方々の役に立てたらいいなと漠然と思っていたのですが、患者さんのご家族や病院のスタッフに対しても重要な役割を果たしたのだということがわかりました。

この女子学生は、病院のボランティアをしてどんなことに気づいたと言っていますか。

1. ボランティアは患者に本を届ける仕事しか任されていないということ
2. ボランティアは患者の周辺にいる人にも役に立つ存在だということ
3. 患者の家族の仕事を手伝うのもボランティアの役目だということ
4. ボランティアは病院関係者にかなり負担をかけているということ

Track 20

15番 先生が、授業で行ったディベートの感想文について話をしています。次回は、ディベートのやり方をどのように変えますか。

一回目のディベートについて、皆さんの感想文を拝見しました。ディベートでは、決められた論題について、自分の意見とは無関係に、賛成か反対かどちらかの側に立ってその立場の正しさを証明しなければなりません。多くの人がこれには抵抗感があったようです。でも、これはディベートの根本ルールですから、変えようがありません。次に多かっ

たのは、自分が意見を述べるとき、対戦相手ではなく、審判員たちに顔を向けて話さなければならないのは、やりにくいという声でした。ディベートは相手を言い負かすゲームではなく、聞いている審判員が勝敗を決めるからなのだというのを、皆さんよくわかっているようですが、やはりこの点はまだ難しいようです。そこで、今回は、相手方を見て話すことにしましょう。ただし、ディベートの目的は、審判員を説得することだということは忘れないようにしてください。

今回は、ディベートのやり方をどのように変えますか。

1. 自分の意見と関係のあることを述べる。
2. 賛成か反対かどちらかの側に立って話す。
3. 対戦相手の方を見て話す。
4. 審判員を説得する。

Track 21

16番 先生がバリアフリーについて話しています。この先生は、今後どんなことが大切だと言っていますか。

車椅子に乗っている人から「混雑した電車に乗ろうとすると、周りの視線が冷たい」という感想を聞いたことがあります。みなさんはどう思いますか。

日本でバリアフリーに関する法律が制定された結果、ハード面では、障害者とそうでない人とのバリア、つまり壁はなくなったように見えます。たしかに建築物の段差をなくしたり、誰にでも使いやすい商品を開発したりするといったことが進んできました。が、ソフト面、つまり障害者とそうでない人とのコミュニケーションは決して十分とは言えません。

しかし最近では、学校で手話や盲導犬との接し方を教えるなど、障害者と接する機会を設けているところもあるようです。このような具体的な指導をすることが、これからはますます重要になっていくでしょう。

この先生は、今後どんなことが大切だと言っていますか。

1. バリアフリーを実現するための法律を整備すること
2. どんな人でも利用しやすい建物を建てること
3. 誰にでも使いやすい商品を開発すること
4. 障害者に対する理解を促進すること

17番 アナウンサーが動物園の園長にインタビューをしています。この園長は、この動物園の人気の理由は何だと言っていますか。

アナウンサー：今年、こちらの動物園は入園者数が日本一になったそうですね。その人気の秘密をぜひ教えてください。

園長：私どもは、数年前から、お客様には動物本来の行動をお見せしようという方針をとることにしたのですが、それが受け入れられたからだと思います。その方針にしたがって、従来の施設を、動物達ができるだけ自然に近い状態でいられる形に大きく造り変えたんです。

アナ：そうなんですか。では、具体的にどのようにされたのですか。

園長：例えば、ペンギンは泳ぐようすを水中トンネルから見られようになりました。それからホッキョクグマは、間近に歩き回る姿をドームの窓から見られるようになりました。

この園長は、この動物園の人気の理由は何だと言っていますか。

1. 動物たちの自然な行動が観察できること
2. 動物たちと直接触れ合うことができること
3. 動物たちのいる施設が新しくきれいになったこと
4. お客に人気がある動物たちを集めていること

18番 経営学の先生が、ある会社のビジネスを授業で紹介しています。この先生が、そのビジネスについて最も評価していることは何ですか。

ビルのオーナーが、トイレの設備を新しくしたいと思っても、工事費用の面でなかなか難しいことがよくあるのですが、ここに目をつけた企業が話題を呼んでいます。この企業は、従来のものより4割から5割くらいの水を節約できるトイレを開発しましたが、水道料金を節約できた分のお金で工事代金を払えるという形で販売を行っています。しかも、工事の後の定期的な点検や、節水の効果を保証するサービスを実施することで、顧客が安心して工事に踏み切れるようにしているのです。このビジネスの特徴として、二つのことが考えられます。一つは、お金がなくても商品が買えるということ、もう一つは、商品と商品購入後のサービスをセットにし、安心して買える仕組みを作ったということです。

この先生が、そのビジネスについて最も評価していることは何ですか。

1. 高い節水効果のある商品を開発したこと

2. 商品を製造するコストを減らしたこと
3. 利用客を多く獲得したこと
4. 買いやすい仕組みを作ったこと

Track 24

19番 記者がロボットの研究者に質問しています。この研究者は、企業がお金のかかるロボット開発に取り組む理由は何だと言っていますか。

記者：日本のロボット技術は、高い評価を受けていますね。最近は大学だけでなく、企業も力を入れているそうですが、それは、利益が見込まれる魅力的なビジネスだからでしょうか。

研究者：たしかに、ロボット市場は今後、ますます大きくなると期待されています。でも、ロボット開発には、莫大なお金がかかりますから、儲かるかどうかは難しいところで、リスクの大きいビジネスだと言えるでしょう。

記者：では、利益が得られなくても開発をしているということですか。

研究者：いえ、実は、企業はロボット開発の過程で生み出される数々の新しい技術に注目しているんですね。つまり、そこで開発した技術がロボット以外に应用できるということです。そういう意味では、必ずしもロボットの販売で採算をとらなくてもいいわけです。

この研究者は、企業がお金のかかるロボット開発に取り組む理由は何だと言っていますか。

1. ロボット開発の技術を他の製品に役立てられるから。
2. ロボット市場が拡大しつつあり、大きな利益が見込まれるから。
3. 高度な技術を開発することで、世界をリードできるから。
4. ロボットの開発費用は莫大なものだと覚悟しているから。

Track 25

20番 先生が、ある植物を二つの環境で育てた実験について話しています。先生の説明から、この植物が花を咲かせるのに必要な条件は何だと考えられますか。

花の咲く時期は、春だったり秋だったり、植物によって決まっています。植物は、どうやって季節を知るのでしょうか。それを調べるために、秋に花を咲かせるある植物を二つの異なる環境で育ててみました。実験時期は夏です。

まず、一つめは、午前9時から午後4時までの7時間、太陽の光に当て、その他の時間は箱に入れました。箱には、光は入りませんが空気は通るので、箱の中の温度は外部とほ

とんど変わりません。一方、二つめは、箱は使わずふつうに育てました。夏ですから、日照時間は14時間近くありました。

この実験の結果、箱に入れたほうが入れないほうよりも一か月以上も早く花を咲かせました。

先生の説明から、この植物が花を咲かせるのに必要な条件は何だと考えられますか。

1. 光の強さが一定に保たれること
2. 風通しのいい環境にあること
3. 光の当たる時間が短くなること
4. 温度が一定に保たれること

④ 聴読解問題スクリプト

Track 28

練習 学生がコンピュータの画面を見ながら先生の説明を聞いています。学生は今、画面のどの項目を選ばいいですか。

えー、これから、この大学のコンピュータの使い方について説明します。では、コンピュータの画面を見てください。今日は、大まかな説明しかしませんが、もっと詳しい事を知りたい人は、右上の「利用の仕方」などを見ておいてください。ああ、今じゃなくて、あとで。あとで見ておいてください。今日はまず、コンピュータを使えるようにするために、利用者の登録をします。では、画面の左下の項目を選んでください。

Track 30

1 番 男子学生と女子学生が掲示板を見ながらインターンシップについて話しています。この女子学生はどこに申し込むことにしましたか。

男子学生：この、インターンシップって、会社で働く経験ができるんだっけ。

女子学生：うん。将来の仕事を見つけるのにも役立つそうだし、今年は申し込むつもりなんだ。

男子学生：あ、もしかしたら、ここ？ 知的所有権が卒論のテーマだし。

女子学生：ううん。インターンシップでは別のことしたいなあって思って、いろいろ考えてるところ。

男子学生：ふうん。

女子学生：ねえ、この販売促進ってどんなことするのかな。

男子学生：住宅の会社だから、家のパンフレットとかポスターなんか作るんじゃない？

女子学生：へえ、おもしろそう。8月はだめだけど7月下旬なら大丈夫だから、これにしよう。

Track 31

2 番 女子学生と男子学生がノートテイク募集の案内を見ながら話しています。この女子学生が申し込むとき特別にすることは何ですか。

女子学生：あ、また「ノートテイク」募集してる。

男子学生：「ノートテイク」って？

女子学生：今、うちの学生の中に耳の不自由な人がいて、その人の出る授業に一緒に出て、先生が話していることを隣でノートに書いてあげるの。

男子学生：へえ。

女子学生：去年も募集してて、私、講習会まで受講したんだけど、そのあと授業時間が合わなくなっちゃってできなかったんだ。今回はいつかなあ？

男子学生：ええと……火曜日の3時限目だって。

女子学生：ああ、そうだね。私、その時間なら授業ないし、今度はできそう。ねえ、一緒にやらない？

男子学生：ほかの人のためにノートをとるなんて自信ないよ。

女子学生：講習会でノートテイクのポイント、教えてもらえるから大丈夫。

男子学生：でも15日ってサークルの会議だろ？ 講習会には出られないよ。

女子学生：ああ、そっか。じゃあ私一人で申し込むか。

男子学生：え？ サークルの会議は出ないの？

女子学生：出るよ。講習会出なくてもいいみたいだから。

Track 32

3番 女子学生と男子学生が、女子学生の作成したアンケート用紙について話しています。女子学生はこのあと、どの部分を修正しますか。

女子学生：ねえ、これ、経営学のレポートで使うアンケートなんだけど。

男子学生：どれ……へえ、外食についてか。

女子学生：うん、これ、どうかな。

男子学生：アンケートって、選択肢で選べるようにしたほうが、答えやすいんじゃないかなあ。ほら、こういう個人的な情報って、正確には書きにくいと思うよ。

女子学生：そうねえ、でも、世代の違いってのは重要な要因だと思うんだ。だから、正確な数字を書いてもらいたくって。

男子学生：じゃ、「よく利用する店」については？

女子学生：これもねえ、たぶんぜんぜん想像してなかったような回答があるかもしれないから、店の名前まで書いてもらいたいんだ。

男子学生：そうか……。あ、でもここはさ、ちょっと答えにくいんじゃないかなあ。ここって、なぜ外食するかを書くの？ それとも、なぜ外食しないのかを書くの？

女子学生：あ、確かにそうね。じゃ、ここは分けることにしよう。

Track 33

4番 女子学生と男子学生が掲示板を見ながら、スピーチ大会について話しています。この男子学生はどのスピーチ大会に参加しますか。

女子学生：わあ、いろいろなスピーチ大会があるわね。

男子学生：そうだね。4月だからね。今年はぜひスピーチ大会に挑戦しようと思ってるんだ。

女子学生：そう、すごい。ねえ、どれに申し込むの？

男子学生：うん、僕は環境研究会に入っていて週末はたいてい調査に出かけたり、環境保護団体の話を聞きに行ったりしてるから……。

女子学生：へえ、がんばってるんだね。

男子学生：うん、だから、これか、これだな……。うーん、早いほうにしよう。締切りまであと1か月か。よし、頑張るぞ。

Track 34

5番 男性と女性がアンケート結果を見ながら話しています。この男性は、グラフの中のどの項目の数字について、今後増える可能性があると言っていますか。

男性：見て、日本の交通について海外から来た観光客にアンケートした結果だって。

女性：へえ、「主な交通機関に対する評価」ねえ。

男性：うん、旅行中に利用した交通機関とそれに対する評価。やっぱり地下鉄の利用は多いね。

女性：都市では便利だからね。あれ？ タクシーはあまり利用されないと思ってたけど結構利用してるね。

男性：うん、4割ぐらい。

女性：プラス評価は思ったより少ないわね。料金が安いからかな。

男性：んー、ぼくは言葉の問題が一番大きいと思うよ。

女性：ああ、そうか。新幹線でも地下鉄でも、切符さえ買えばあとはしゃべらなくてもいいもの。

男性：だから、その点をどうにかすれば、きっと評価もよくなるよ。

女性：まあ、簡単じゃないでしょうけどね。

Track 35

6番 本屋で学生が店員と話しています。店員はこの学生にどの本を薦めますか。

学生：すみません、パソコンの本探してるんですけど……。

店員：はい、どのような本をお探しでしょうか。

学生：どのような……えーっ……。

店員：あのう、失礼ですが、パソコンは使い始めたばかりでいらっしゃるんですか？

学生：ええ、まあ……。でも、基本的なことは一通りできると思います。

店員：それでは、もっと高度な使い方について書いた本をお探しでしょうか。

学生：高度な使い方って？

店員：写真をパソコンで管理したり、音楽を聴いたりとか……。

学生：いえ、そういうのじゃなくて、例えば画面がフリーズした場合とか、ウイルスに感染した場合とか、何か問題が起きたときの対処法について知りたいんですけど。

店員：それなら、こちらなどいかがでしょうか。

Track 36

7番 男子学生と女子学生が食生活と環境についての資料を見ながら話しています。この二人が話していることに最も関係が深いのは、資料の中のどの項目ですか。

男子学生：先週、食品と環境の関係について教わったんだけど面白かったよ。「フード・マイレージ」って知ってる？

女子学生：何、それ。

男子学生：フード・マイレージっていうのは、国の食品の輸入量と、その国からその食品を輸出している国までの距離を掛け合わせたものの合計なんだ。

女子学生：ふーん。

男子学生：ほら、日本は食料品を外国からたくさん輸入してるだろ？ だから、日本のフード・マイレージは高くって、運搬の面ではかなり地球に負担をかけてるみたい。

女子学生：だったら近い場所の食品を食べた方が、環境への負荷は少ないのね。

男子学生：そう、環境にいいと思って無農薬の野菜を買ってたけど、それだけじゃだめなことがわかったよ。

女子学生：うん。そうだね。

Track 37

8番 大学研究室に送られてきたFAXの文書を見ながら、助手が先生に電話をしています。この先生はあることを思い違いしていたようです。思い違いの内容はどれですか。

助手：あ、もしもし、木村先生でいらっしゃいますか。

教授：あ、松田君？

助手：はい。研究室に、東亜大学からFAXが入ったんですが……。

教授：あ、そう。5日の講演の件だろう。

助手：はい、そうなんですけど、確認ということで、時間とかいろいろ書いてありますけど。

教授：とにかく、4時までには講演会場へ直接行けばいいんだろう。

助手：えーと、そうではないようです。

教授：え、何て書いてあるの？

助手：はい、じゃ、今から読みますので

Track 38

9番 女子学生が資料をもとに「大学生のおしゃべり」について発表しています。このあと、この女子学生はどの項目について詳しく話すと言っていますか。

資料1を見てください。これは女子学生に対し、おしゃべりにどんな効用があるか、という質問をし、その答えを集計したものです。

これを見ると、おしゃべりは人間同士のネットワークを広げるのに役に立つ、と考えられているようです。例えば、人と仲良くなったり、情報や知識の交換をしたりできる、というような回答からそれがわかります。

それから、おしゃべりによって自分のことがわかる、という意味の回答も、かなりありました。これは具体的にどういうことなのでしょう。今日はこの点に絞って、いろいろ考察を深めていきたいと思います。

Track 39

10番 ある会社の人々が、自社の農業機械の生産高がどのように変化してきたかについて説明しています。この説明の内容をグラフで表すとどのようになりますか。

日本では戦後、若者が農業から離れていったために、農家に人手が足りなくなってきました。そういうこともあって、日本の農業はしだいに機械化されてきました。私どもの会社の農業機械製品は、1970年代後半から80年代後半にかけて急速に生産高を伸ばしてきたんですが、その後95年ごろまでいったんは減少傾向に転じました。しかしわれわれの研究開発の努力が効を奏して、90年代後半には再び生産高が上向きになり、2000年には90年の水準にまで戻りました。

Track 40

11番 先生がマーケティング論の講義で「地域ブランド」について説明しています。この先生は、資料の中でどの項目がいちばん重要だと言っていますか。

「地域ブランド」というと、ある商品にそれを生産する地域の名前を付けて売り出すこ

とのように思われているかもしれませんが、実はそうではありません。商品が、その地域のイメージを向上させ、地域を活性化することにつながらなければ、真の「地域ブランド」とは言えません。

先週は、地域ブランドを立ち上げる際に留意すべきこととして、資料にあげた各項目についてお話ししましたが、私はその中でも、ブランドの目標設定、ということが何より大切だと思っています。単に、良い製品を作ろう、というような漠然とした目標ではなく、その地域の特性をとらえ、それとうまく関連付けられるような形で商品の特徴づけをおこない、それを実現していく、ということです。消費者から、他の地域のものとはちがう、あるいは優れている、という評価が得られてこそ、地域ブランドを立ち上げる意味が生じるのです。

Track 41

12番 先生が、ある植物の種の発芽実験について説明しています。先生がこのあとと言うとしていることは何ですか。

このグラフは、シバという植物の種の発芽についての実験結果です。実験では、2種類のシバの種を、暗いモミの林と明るいススキの群落の2カ所にまきました。2種類の種のことを、ここで仮に「種①」と「種②」としましょう。種①は、動物にいったん食べられ、糞の中から回収された種、種②というのは、何の処理もしていない普通の種です。グラフのdの線を見てください。モミの林にまいた種②は全く発芽していません。もっとも発芽率が高かったのはaの線、つまり、ススキの群落にまいた種①です。全体的に見ても、暗いモミ林より明るいススキ群落にまいた種のほうが、発芽率が高くなっています。ここから、発芽には光が関係しているようだということがわかりますね。では、種がまかれた場所が同じであれば、種①、種②のどちらが発芽しやすいかを見てみましょう。グラフから考えると、次のようなことが言えるのではないのでしょうか……。

Track 42

13番 先生が講義で運動を上達させる方法について話しています。この先生は今、どのポイントについて話していますか。

スポーツは、やみくもに実践練習をしたり、体に動きを覚え込ませたりすることだけが大事なわけではありません。直接そのスポーツをしなくて体の動かし方を、頭で思い描くことも重要です。運動をしている自分から一歩離れ、動きを頭の中で想像するような感じですね。それが、さらなる上達に結びつくのです。

14番 先生がNPOの定義について、資料を見せながら説明しています。この表の3行目には、どのような組み合わせで○と×が入りますか。

NPOとは、Non-Profit Organizationの略で、営利を目的としない「非営利」組織のことですが、定義をあいまいにしている人が多いので、確認しておきましょう。

まずその組織が、お金儲けを目的としない、ということが第一の条件です。次に「民間」の組織であること、つまり税金によって運営されているのではない、ということが必要です。第三に、特定のメンバーではなく、世の中の広い範囲の人々が利益を得ることに貢献しなければならない、という条件があります。

そこで、いろいろな団体がNPOにあたるかどうかを、次の表によって確認してみましょう。まず、会社はお金儲けを目的としていますし、特定のメンバーが利益を得るのでNPOではありません。また地方公共団体は、非営利の組織ですが、税金によって運営されていますから、NPOには含まれません。では、表の3行目に「同窓会」と記入してください。同じ学校を卒業した人々の交流のために作る組織ですね。同窓会は、NPOにあたるでしょうか。

15番 心理学の授業で、男子学生がストレスについて調べたことを発表しています。この男子学生が挙げた例は、資料の中のどの部分にあたりますか。

ストレスの原因になる出来事を「ストレッサー」と言うのですが、その受け入れ方によってストレスの反応が異なるそうです。身近な例を紹介します。一般に大学入試というものは、心理学的にはストレッサーの一つであると考えられます。けれども僕自身は、受験勉強は友だちと励ましあいながらしていましたし、何よりも大学生生活に希望を持っていたので、ストレスはそれほど感じていなかったと思います。

このようにストレッサーの受け入れ方次第では、ストレスをプラスに反応させることができます。ストレスのしくみを知っておけば、ストレスとうまくつきあうことができると思います。

16番 先生が、ある陸上選手の100メートル走の走り方について分析して説明しています。先生は、この選手が後半減速しないためにはどうしたらいいと言っていますか。

このグラフは、ある陸上の選手が100メートル走るとき、走るスピードがどのように変

化していくかを表したものです。近年では、1回1回の走りをこのように曲線で表し、分析することによって、その選手のより理想的な走りを追求することができるようになりました。

この選手の場合、最高速度が秒速12メートル近くにもなるのですが、後半で減速しはじめるのが早いため、記録が伸びないというのが悩みです。グラフを見ると加速が急で、60メートルの地点で既に最高速度に達してしまっているのが分かります。ですからスタート時に急な加速をせず、最高速度をもう少し後ろの位置で出せるように走ることが課題でしょう。

Track 46

17番 授業で、先生が情報のデジタル化について話しています。この先生が挙げる「デジタル化の問題点」は、資料のどの点と関連していますか。

えー、デジタル化された情報というのは、すべて数値に置き換えられており、コンピューターによる処理が非常にしやすくなっています。そのため情報に手を加え、新しい情報として再び配布する、ということが簡単にできます。

このように情報の加工が簡単にできるようになりますと、その一方ではもともとの情報が誰に属する情報だったのか、分からなくなるということが起きます。また、情報が際限なく流通していくことで、情報の一部だけが一人歩きをして、思わぬ問題を起こすといったことも出てくるわけです。このようなことがデジタル化の問題点と言えるでしょう。

Track 47

18番 先生が、社員に対する賃金の決め方について話しています。この先生が最後に紹介する企業の例は、図のどの部分に位置しますか。

企業が社員に払う賃金の額を決めるには、二つの評価軸があります。一つめは、図の縦軸です。社員が実際にあげた業績や成果、つまり表にあらわれた能力によって賃金を決めるのか、あるいは、身に付けていると考えられる能力によって決めるのか、という軸です。実際の業績によって賃金が決まるのであれば、図の上半分には位置することになりますし、現在の業績は少なくとも、例えば何か資格をもっていて、高い能力が期待できる社員には多く賃金を払うというのなら、図の下半分になります。

二つめは、図の横軸です。社員の集团的属性、つまり、性別とか年齢のようなもので決めるのか、あるいは社員個人の能力や仕事ぶりで決めるのか、という軸です。

私が先日訪れた企業では、毎年一人一人の社員に対する能力審査が行なわれ、それによって賃金が決められていました。しかしその審査は、その年の業績によって行われるという

よりも、例えば何か新しい資格をとったか、というようなことが考慮されているようでした。

Track 48

19番 異文化コミュニケーション学の授業で、先生が人と人の間の距離について話しています。この先生は、この話に続けてどのようなことを言いますか。

私たちは、話をする相手との間に物理的に一定の距離を保っていますが、適当な距離の決定には、自分と相手の関係やどんな場面であるかということが関係します。

エドワード・ホールという文化人類学者は、対人関係を4つに区分し、この区分と実際の空間的距離との間には相関があると考えました。資料に示したのが、それぞれの距離区分の特徴と、北米における距離の実測値です。つまり北米の人々が、たとえば一般的な会話を行なうときは、おおむね1メートル半から3メートル半くらいの距離をとる、ということですね。

ただこの距離は、あくまで北米においての実測値であり、日本で調査すれば、当然違った値が得られるものと思われます。そこでこの授業では次のようなことをしようと思っています。

Track 49

20番 先生が生物学の授業で生存曲線について説明したあと、学生に質問します。学生はこの質問に何と答えればいいですか。

「生存曲線」というのは、ある生物が一生のどの段階でどのくらい生き残っているかという割合をグラフにしたものです。図1を見てください。例えばヒトは、親によって保護されて育ち、また天敵もいないため、かなりの個体が高齢まで生き続けます。このためCのような曲線になります。一方チョウや魚などは、親は卵を産むだけで何の世話もしないので、大多数が幼いうちに死んでしまい、Aのような形になります。

さて、ミツバチはどうでしょう。ミツバチは大きな巣をつくり、その中で多数の個体が社会生活をしています。幼虫は成虫に守られて育ちますから、幼虫の時の死亡率は鳥などと比べても低めになりますが、当然天敵はいますので、ヒトのような生存曲線にはなりません。

そこで、皆さんちょっと考えてみてください。ミツバチの生存曲線は、図2の中のどれだと思いますか。